

施策評価シート

施策番号【2-2】

評価年度	令和6年度	事業実施年度	令和5年度	施策主管次長名	木戸 貴秀		
施策番号	2-2	施策名	生涯にわたって健康に暮らせるようにしよう			総合計画掲載頁	90～97
主担当部名	福祉部						
関連課名	長寿介護課、保険健康課、学校教育課、スポーツ課						

1 総合計画の目標指標 PLAN & GOAL（中間値と最終目標値の確認）

取組分野1 地域医療			R5	R10
指標名	特定健康診査受診率 後期高齢者健康診査受診率		中間値	目標値
指標の定義	40歳から74歳までの国民健康保険被保険者を対象とした特定健康診査を受信した者の割合 75歳からの後期高齢者医療保険被保険者を対象とした健康診査を受信した者の割合		60% 40%	65% 45%
取組分野2 健康づくり			R5	R10
指標名	健康づくりに関する取り組みの市民満足度割合		中間値	目標値
指標の定義	「健康づくり」の取り組みに対する満足度割合（アンケート）		75%	80%
取組分野3 スポーツ			R5	R10
指標名	成人のスポーツ実施者の割合		中間値	目標値
指標の定義	週1回以上スポーツをする人の割合		56%	65%
取組分野4 生きがい・働きがい			R5	R10
指標名	生きがい・働きがいに関する取り組みの市民満足度割合		中間値	目標値
指標の定義	「生きがい・働きがい」の取り組みに対する満足度割合（アンケート）		79%	82%
取組分野5			R5	R10
指標名			中間値	目標値
指標の定義				

2 成果指標 DO & REPLAN（実績を計上し計画値を再設定）

指標①	取組分野1 地域医療							
	成果指標名	健診受診歴分析者数	単位	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績
			人	8,310	8,238	8,409	8,784	9,073
	対象	健診受診対象者	指標設定の考え方	過去3年間の健診受診歴を分析し、受診勧奨対象者を抽出することで、対象者に対し効果的な受診勧奨を実施する。				
			把握方法	1年間に健診受診歴データを分析した数				

指標②	取組分野2 健康づくり							
	成果指標名	健康マイレージ事業参加者数	単位	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績
			人	88	101	116	148	158
	対象	市民	指標設定の考え方	市民が自主的に健康づくりに取り組むための動機づけとするため、健康マイレージ事業を実施する。				
			把握方法	1年間の健康マイレージチャレンジシート達成者数				

指標③	取組分野3 スポーツ							
	成果指標名	スポーツ施設の年間利用者数	単位	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績
			人	350,338	246,121	291,836	324,568	339,793
	対象	利用者	指標設定の考え方	市民が気軽にスポーツに親しむ機会を提供するため、スポーツ施設・設備の整備を進める。				
			把握方法	1年間の利用状況を施設別に把握				

指標④	取組分野4 生きがい・働きがい							
	成果指標名	シルバー人材センターが年間契約している事業所契約件数	単位	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績
			件	47	45	36	36	34
	対象	事業所等	指標設定の考え方	働く意欲のある高齢者に就労の場を提供するシルバー人材センターへの支援を行う。				
			把握方法	年度末現在の年間契約している事業所契約件数をシルバー人材センターに確認				

指標⑤								
	成果指標名		単位	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績
	対象		指標設定の考え方					
			把握方法					

3 施策の評価 ANALYSE & CHECK（分析・評価）

施策の分析（現状の確認と近隣調査）		
施策の現状	・特定健診受診率、後期高齢者健診受診率は経年的に増加傾向にあり、生活習慣病重症化予防事業や受診勧奨等の各種保健事業を展開することにより市民の健康保持と医療費の適正化に努めている。 ・市民のスポーツ実施率は国の「第2期スポーツ基本計画」で示された実施率と比較して大きく下回っている。 ・シルバー人材センターの会員数を伸ばすために、これまで、事業所訪問を行うことで高齢者の希望に応じた幅広い職種の開拓を行っていたが、令和2年度からコロナ禍により、事業訪問を中止している。	
成果向上に向けての市民と行政の役割分担	市民	健康寿命の延伸を図るため、日ごろから健康づくりに努め、進んで健（検）診を受診し、病気予防・療養・治療に専念する。スポーツの多様な効果を認識し、スポーツを生活の一部とすることで人生を豊かにし、生活の質の向上と健康でゆとりのある生活を送るようにする。多くの高齢者が積極的に参加できる多様な地域活動を立ち上げ、地域で生きがいや働きがいをもって、健康に暮らせる環境づくりに努める。
	行政	・健康増進の機会、早期発見のため健（検）診の普及を図り、健（検）診費を負担する。 ・年代に応じたスポーツライフを充実させるためスポーツ機会の提供と施設の整備に努め、市民がよりイベントや教室に参加しやすい環境を整え、スポーツ活動の切っ掛けづくり行う。 ・高齢者の希望に応じた幅広い職種を開拓するなど、シルバー人材センターの事業の充実を図る。
近隣市町との比較	・特定健診法定報告によると、令和4年度受診率は39.4%で県内38位、近隣市町との比較で安城市が46.4%と高く、同一医療圏の豊田市は38.3%となっている。 ・成人の週1回以上のスポーツ実施率：みよし市R4(51.0%)、全国R4(52.3%)、名古屋市R4(53.3%)、豊田市R4(59.1%)	

施策の評価（活動の振り返りと課題の明確化）	
令和4年度以前の活動	・特定健診の集団健診やレディース検診（乳がん検診・子宮頸がん・骨密度のセット検診）や「健康マイレージ事業」を実施。 ・特定健診の受診勧奨（対象者を受診履歴から分析し受診動向のタイプ別に仕分けする方法）の実施。 ・令和4年度の生涯スポーツ事業は友好都市スポーツ交流事業の野球とサッカー少年団の派遣を除いて全ての事業を行った。これまでの体育祭とマラソン大会の内容を大きく変更し一般市民が参加しやすいスポーツイベントとした。 ・年度当初の、市工業経済会役員会にて、シルバー人材センターの活動内容の説明及び仕事（発注）依頼を行い、募集チラシを作成し、地域事業所へポスティングによる案内を行った。
令和5年度の活動内容	・特定健診の受診勧奨（対象者を受診履歴やレポートデータから分析し受診動向のタイプ別に仕分けする方法）を実施 ・後期高齢者医療被保険者の健康維持のための支援事業として、フレイル対策としての保健指導や教育・相談などを行う「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施推進事業」を実施した。 ・シルバー人材センターについては、コロナ禍により事業所訪問を行うことでの就業機会の確保に努めることができなかったため、会員増の施策として新たにSNSを活用し会員募集をおこなった。引き続き、女性委員会による「認知症予防コグニサイズ講座」、「保田ヶ池ウォークラリー」を実施した。 ・高齢者の社会参加を促すことを目的とし、高齢者個人の特性や希望にあった活動をコーディネートする、就労の支援コーディネーターをくらしはたらく相談センターに配置し、高齢者の就労支援を行った。 ・令和5年度は総合体育館の大規模改修工事に伴い4ヵ月間全館閉館となったが、同時に、スポーツをより楽しめるように施設の改修を実施できた。また、施設使用料の見直しに合わせて、市民が総合体育館を利用しやすくなるよう区分の変更等を行った。
積み残し課題等	・未受診者対策だけでなく、受診した人が継続受診者につながる取組を検討する。 ・4ヵ月間総合体育館を閉館し大規模改修工事を行いリニューアルしたため、トレーニングルーム等における利用者を増やし市民に運動・スポーツによる健康づくり、体力づくりを促す方法を考える必要がある。 ・高齢者人口は増加しているが、定年後も引き続き働き続ける人も多く、シルバー人材センター会員数の伸びが少ない。

4 活動計画 ACTION & PLAN（目標を達成するために起こす行動）

令和6年度以降の施策目標達成に向けての取組の方向性	・健康マイレージ事業の周知方法として、出張健康講座やイベント等での普及啓発の働きかけを積極的に進める。 ・令和4年度から開始した高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施推進事業の拡大を図る。 ・スポーツ実施率を向上させるため、市とパートナーシップ協定を締結しているトップスポーツ選手との交流や試合観戦の機会を創ることでスポーツへの関心を高め、スポーツの実施率の向上につなげていく。 ・くらしはたらく相談センターの設置する就労的支援コーディネーターと連携し、新規会員の発掘を行う。
施策目標達成に向けての令和6年度の活動内容	・スマートフォン等の専用アプリを活用した「健康マイレージアプリ」の幅広い世代への利用拡大の推進を図る。 ・特定健診を受診した人が経年的に継続受診につながるインセンティブな取り組みとして、健診結果発送時に抽選で健康づくり大使「キューちゃん」のロゴの入ったエコバックを送付する。 ・糖尿病などの重症化のおそれのある対象者に対しての保健指導の実施 ・ドラゴンズ、名古屋グランパス、ヴェルブリッツ、アドマテックススフィアーズ等の公式戦の無料観戦事業を実施するとともに、トップ選手が小中学生を中心とした市民とのスポーツによる交流を行う。 ・シルバー人材センターと就労的支援コーディネーターが連絡調整を行う会議を開催する。また、コロナ禍により中止していた事業所訪問を復活する。